

第12回 校長会議あいさつ

R3.2.16 稲垣

緊急事態宣言が延長されましたが、幸い感染拡大は少しずつ沈静化しつつあるようです。油断は禁物ですが、さまざまな我慢を強いられている子どもたちのことを思うにつけ、一日も早く、通常の学校生活に戻れることを願わずにはられません。

本日は、二点についてお話します。

一点目は、子どもたちの育ちについてです。コロナ禍が始まってから一年が経とうとしています。学校では新しい生活様式もすっかり定着しましたが、現状の学校生活は、安全面の確保はされたものの、教育的にはけっしてベストとは言えません。校内でのソーシャルディスタンスは、子ども同士のかかわりの希薄化を招き、心の成長を阻害している危惧もあります。また、教育活動の制約によって、伸長が遅れてしまった能力があるかもしれません。来年度の教育課程の編成にあたっては、以上のような認識に立って、十分な配慮をお願いいたします。

二点目は、今後の教育動向についてです。国は小学校の35人学級実施に向けて、来年度の2年生から順次学年を上げて実施していく計画を打ち出しました。この計画は、今後10年間を見通す中で、児童生徒数が全国的に減少していくという前提に立っており、学級数の増加はそれと相殺されて、新たに莫大な予算を要しないという見通しのように思われます。しかしながら、愛知県とりわけ西三河地域では、児童生徒数に大きな減少は見られない市町が大半です。本市も同様で、学校によっては校舎増築の必要なところさえあります。愛知県では現在既に小2の35人を実施していますので、来年度からは、国に先駆けて小3の35人学級の実施に向けて動いています。本市の場合、小3で35人学級を実施した場合、9クラスの学級増となります。当然、教員も教室も同数の増加となります。一方、近年、西三河地域では教員不足が深刻化しており、本市でも定員を満たしていないのが実態です。また、学級数が増えれば学校全体の仕事量も増加するのですが、学校では働き方改革の進行する中、超過勤務時間について厳しい制限を受けつつあります。県が学級増加分の教員を確実に増員してくれることを切に願うところです。このような状況下で来年度を迎えるにあたっては、教育委員会としても、それぞれの学校事情に最大限配慮した人事配置に腐心いたしますが、校長先生方には学校経営にあたり、いっそうのご尽力をお願いするところです。児童生徒の成長を最優先に教育活動を進めながら、限られた勤務時間の中でOJTを機能させることや、教師力を向上させたい若手の思いにどう応えていくかなどが、重要な課題となります。自主研修会の奨励や学校間交流など、工夫を凝らしていただきたいと思います。